

平成26年度 行政評価における外部評価会議について

市で行う事務や事業について実施している担当課による自己評価に加え、市民や民間の視点を把握することにより、当該事務事業の将来的な方向性を判断する際に参考とするため、あらかじめ選任された市民による外部評価会議を次の日程で開催しました。

会場：市役所会議棟 1階 第1・2会議室

日時		対象事業名	担当課
7月22日(火)	午後1時45分～午後2時35分	市営住宅管理事業	総務管財課
	午後2時45分～午後3時35分	交通安全自転車対策事業 (放置自転車撤去)	土木課
	午後3時45分～午後4時35分	巡回相談事業	学校教育課
7月23日(水)	午後1時15分～午後2時05分	小学校音楽鑑賞教室	指導室
	午後2時15分～午後3時05分	東大和市学校研究奨励事業費補助金	指導室
	午後3時15分～午後4時05分	木造住宅耐震助成事業	都市計画課
	午後4時15分～午後5時05分	駅前広場管理事業	環境課
7月25日(金)	午後1時15分～午後2時05分	高齢者食事サービス事業補助金 交付事務	高齢介護課
	午後2時15分～午後3時05分	介護支援いきいき活動事業	高齢介護課
	午後3時15分～午後4時05分	図書の購入(清原図書館)	中央図書館
	午後4時15分～午後5時05分	消費者保護対策事業	市民生活課
7月28日(月)	午後1時15分～午後2時05分	機能訓練事業	健康課
	午後2時15分～午後3時05分	園芸振興対策費、ファーマーズ センター運営費	産業振興課

※ 外部評価会議は、公開(傍聴可)とし、傍聴定員は、各回先着10名としました。

平成26年度

事務事業評価における外部評価会議
結果報告書

① 市営住宅管理事業

- ・ 古い建物であり、安全性が心配。都営住宅に優先して入ることができないのか。
- ・ 安全面を考えたら、他市で行っているように住み替えの斡旋を考えていく必要がある。
- ・ 入居者の住み替え等の意思の確認をするべきではないか。
- ・ 入居者の世帯状況等は市で把握し、担当者に引き継がれているのか。
- ・ 解体後の空き地は、南街の祭りで活用できて便利だが、民間に売却し、活用を図れば歳入増につながる。
- ・ 長い間、空き地になっているので早い対応が必要。
- ・ 市営住宅を何戸建てなくてはいけない等縛りがないのであれば、住宅マスタープランなどであり方を計画すべき。
- ・ 防草シートを活用しているということだが、何故すべての空き地に防草シートを敷かないのか。除草費用と比較したらよい。
- ・ 空き地にお金をかけるのはもったいない。管理費用を減らすべき。
- ・ 経費を削減していく努力をすべき。
- ・ 空いている土地は誰のものか。市民のもの。何年も価値を付けずに置いておくのはどうか。価値を付けるよう活用すべき。
- ・ 何事にもスピーディに。現在の住民について住み替えの検討は。
- ・ 入居者の所得が低くて法的な支援を受けている方もいると想定できる。そちらの制度をうまく活用する事も一つの手段。その方が快適な生活が出来るかもしれない。
- ・ 建物の管理だけでなく、住んでいる人のことを考えた管理をするのも仕事だと思う。
- ・ 事業費と人件費から見ると1戸あたり40万円かかっている。その分を使って住み替えしてもらったらよい。
- ・ 住宅が余っている状況がある。市営住宅は必要ない。
- ・ DVのシェルターの的に使える家が必要であれば、活用できると思う。（付加価値を付ける）
- ・ 耐震面でも心配。取り壊してはどうか。
- ・ 今後の方向性として住宅政策の専門部署の設置とある。そのとおりだと思うが、市民から見れば縦割り行政である。担当部署が違って連携することが必要。

② 交通安全自転車対策事業（放置自転車撤去）

- ・ 自転車対策の事業費が3300万円程かかっている。減らす考えはないのか。
- ・ 久米川駅前には放置自転車が多かったが、人を配置してきれいになった。人を付けると費用が多くかかるか。
- ・ 自転車の返還率。自転車対策費用に対しての撤去手数料の割合はどうか。
- ・ 撤去手数料を高くすることで、放置自転車が減るかもしれない。
- ・ マナー違反に対しては、多く負担をしてもらうことも考える。試行的にもやってみては？
- ・ 手数料も3～5年くらいで見直しをする。
- ・ 無料といっても既に税金で負担している。有料になると二重に取られてる気がする。
- ・ ちょこバスが駅に入ることで、自転車利用は減ると考えているか。
- ・ 他市のホームページでは、マナーから重点にお知らせしている所もある。
- ・ 放置自転車対策の成功事例は他市であるのか。
- ・ まったく止めてみるという選択肢もある。
- ・ 啓発に力を入れてやってみる。かかっている費用を表に出す。

③ 巡回相談事業

- ・ 職員がかかわっている割合が少ないが、もっとコーディネートする人間が必要なのではないか。
- ・ 多い事例を、保護者に知ってもらうことも必要なのではないか。
- ・ 事業費を減らすことではない。子ども達に適切な教育が受けられるようにする事が大切。
- ・ マニュアルはいつ改訂されるのか。
- ・ 全体を俯瞰する機能はあるのか。
- ・ 実際この人数で足りているか。子どもの状況もずいぶん変わってきている。
- ・ 特別な配慮が必要な子どもと、一緒に学ぶ子ども達への配慮も必要。
- ・ 1対1の相談が大切。費用の範囲で頑張ってもらいたい。
- ・ 特別な支援が必要な子どもをどうやったら減らせるのか。
- ・ 教育委員会の組織の中でのあらゆる相談事業を統合して、司令塔的な立場の人がいると良い。

④ 小学校音楽鑑賞教室

- ・ 終了後、児童の意見・感想を聞いているのか。
- ・ 初めて聞く子どもは多いのか。
- ・ 各校での鑑賞教室で代替が出来ないのか。
- ・ 年に1回の感動が必要なのか。費用を考えれば代替措置がないのかを考えることも必要ではないか。
- ・ 違うお金の使い方があってもよいのではないか。トータル的に考えた効果を考えてほしい。
- ・ 惰性的になってしまうこともある。
- ・ 地元の学生（音大生）を招くのも良いのではないか。地元の学生とのふれ合いもできる。費用も抑えられるのではないか。
- ・ アマチュアを呼ぶのであれば止めた方がよい。現状のようにプロによる本物を見る事業を続けることが大事。貴重な体験だと思う。
- ・ 音楽の街「やまと」とイコールなのかどうかはわからないが・ ・
- ・ 毎年違ったプログラムなのか。
- ・ 作文だけでなく、小グループで話すとか生の意見も必要。
- ・ 形骸化して流れていくことがないよう児童の意見を聞くことも大切。
- ・ 都の補助金がなくなったということは目的が達せられたということだと思う。授業時間は何単位くらいかけているのか。
- ・ 公費で続けていくべき。
- ・ このような機会が本当にないのかどうか当事者の生の声を聴いてほしい。
- ・ 1回ではもったいない。日々そのような仕掛けを作って欲しい。
- ・ 親の趣味などで機会を与えられる子もいるが、学校でこういう企画があって初めて触れる子も多い。
- ・ 親の意識が変わらなければ、文化的に高めようとしても難しい。

⑤ 東大和市学校研究奨励事業費補助金

- ・ 「教育の日やまと」に保護者はどれくらい参加しているのか。
- ・ 補助金上限をほとんど使っているが、補助金の他に自校の持ち出しはないのか。
- ・ 不登校の調査研究については、引き継がれているのか。
- ・ 場の設定を行わなければ、個々の成果が波及しない。
- ・ 研究発表の紙ベースをもらっても多忙な中、活かしていくことが難しいのではないか。
- ・ 同じ課題を抱えている教諭が集い勉強会的な事を行い、各校から参加した教諭が学校に戻って広げていく方が効果があるのではないか。
- ・ 預けている側の親からすると、手上げ方式は、やる気のある学校だけが効果が上がっていくように思える。
- ・ 補助金で足りなければ、2校が合同で行うこともできるのではないか。小中一貫の学校が合同ですることにも可能ではないか。
- ・ 不登校の研究を長年おこなっているが、傾向から類型化できないか。
- ・ 調査研究の共有が課題である。
- ・ 事業に課題がないのか、立ち止まって考えてみることも必要。
- ・ 研究は必要なことだが、方法については疑問に思う。先生が研究する機会を均等にして波及効果を高めることを希望する。

⑥ 木造住宅耐震助成事業

- ・ 集合住宅への対策はしているのか。
- ・ 55万円の事業費に対して職員の人件費がかかっている。何に携わっているのか。
- ・ 昭和56年度以前の住宅は、耐震基準を満たすには改築に近い改修が必要となるのではないか。その割には、改修件数は少ない。助成額が少ないと感じる。
- ・ 名目的事業で、中途半端である。この内容で動機づけになるのか。
- ・ 人命尊重を考えるのならば、簡易的な改修で、防ぐことのほうが現実的ではないか。耐震構造評点を下げること必要。
- ・ 耐震化率を90%にするには、膨大な費用が必要となる。
- ・ 生活する人を守るという所が見えない。
- ・ 耐震診断をもっと補助しないと、住んでいる人が危機感をもたない。
- ・ 自分の命は自分で守る。助成制度について知らない人が多いのではないか。周知を図る必要がある。
- ・ 自分の財産なのだから改修の助成金いらない。診断の助成をしていった方がよい。
- ・ 防災の観点でも街づくりの観点でも市民は同じ。
- ・ RCのマンションは、人が死ぬような倒壊はないので、そんなに力を入れなくてもよいのではないか。

⑦ 駅前広場管理事業

- ・ トイレを使用するが臭い、暗い、汚い。いつ頃改修出来る予定なのか。
- ・ 清掃委託料が上がっている。管理する課が分かれていることで、委託を別々に行っているからか。
- ・ 清掃業者が、土木課・環境課ともに同じであれば、管理する担当課がちがっていても効率化は図れるのではないか。
- ・ 樹木の管理に関して、土木課と環境課と一体化して委託することはできないのか。
- ・ 総価契約と単価契約とどちらがいいのか。見積りをとって検証したらどうか。
- ・ 管理の組織を一本化することは可能なのか。
- ・ 組織が2つあっても問題ない。ミーティングをしていないのか。共通の目的があれば、課を超えて話し合いが出来る。
- ・ トイレはかなり使用されている。トイレのネーミングライツとか。駅前店舗の協力を募るとか工夫はできるのではないか。
- ・ 少しでもきれいになれば使用する人の意識も変わってくる。
- ・ ボランティアの協力も募ったらよい。
- ・ 掃除する時間を変えたら良いのではないかと。等も考えられる。
- ・ 近隣にコンビニ等の店舗があれば、そちらに入りたい。公衆トイレはなければ無いで何とかするのではないかと。
- ・ マナーが悪く、市が努力してもなかなかきれいにならない状況。トイレを無くして予算を他に使った方がよい。
- ・ 駅で停まっているタクシーの運転手は使っている。
- ・ 汚されないように警鐘的なことが出来ないか。
- ・ 委託業者をきちんと見る必要がある。効率的に行われているかどうかのチェックが出来る様な着眼点を持ってほしい。
- ・ 建て替えるのであれば、スポンサーを募るのも一つの手。市民が必要としているのであれば、お金をかけてこだわりのトイレを作って、市民にきれいに使ってもらうような取り組みが必要。（ボランティア等）
- ・ 外観はしっかりしているので、内装を良くしてほしい。
- ・ 今度建てるなら、ソーラーを載せてほしい。
- ・ 設備系の配管から変えないと匂いは消えない。
- ・ 清掃業者も進化しているので、匂い対策が出来る業者もいるのではないかと。

⑧ 高齢者食事サービス補助金交付事務

- ・ 良い制度なので、引き続きやって欲しい。
- ・ 民間の宅配弁当の方が若干安く、栄養バランスも考慮されている。
- ・ 弁当はチルドなのか。手作りなのか。食べたことはあるか。
- ・ 意義がある仕事。
- ・ 安否確認の情報のフィードバックはあるのか。実際に対応事例はあるのか。
- ・ 配食数は減っているのに社協への補助金は増えている。人件費の補助の方法についてどう考えるか。
- ・ 高齢者は増えている。社会福祉協議会の人数も増えているのか。
- ・ 市を定年した方が、局長になっている。市からあえていくことはプラスなのか。マイナスなのか。社会福祉協議会には専門性が高い人がいる。社会福祉協議会の職員が局長になるべき。
- ・ 特定財源は、お弁当の配食事業でないと補助対象にならないのか。
- ・ 現在では民間の宅配が多くあるので、安否確認であればお弁当の宅配ではなく、他の事業にしてはどうか。
- ・ 事業費の中身は、食事サービスに限定した事業費か。
- ・ 対象70人のうち生活保護受給者はどのくらいか。なぜ200円の補助をしているのか。生活保護費に食費も含まれているのではないか。
- ・ 市が社会福祉協議会に補助金を支出して、事業の内容を市はどう把握しているのか。
- ・ 30年前だったら、弁当の宅配業者は少なかったが現在ではたくさんある。
- ・ 特別食（糖尿病食等）について、社会福祉協議会に要望しているのか。任せきりではないのか。
- ・ 仕組みは立派だが、中身がないのではないか。
- ・ 同じ業者ですっとやっていることを不思議に思う。市からの目線がないのではないか。生ぬるい関係で成り立っているのではないかという印象を受ける。
- ・ 代替措置を考え、同じ業者で継続すべきではない。

⑨ 介護支援いきいき活動事業

- ・ この制度は、全国共通なのか。
- ・ ボランティア登録者の指導等の場を設けているのか。
- ・ 市としてのメッセージを発信していかなければならない事業である。
- ・ 対象施設を広げていく必要がある。介護施設に限らず、公民館活動をしている団体の発表の場として施設への慰問も対象にするとか。
- ・ 社会福祉協議会と市民でワーキンググループ等を作るとか。仕組み作りをして一気に可成におこなうこともよい。
- ・ 元気な高齢者が、ボランティアに行けばすべて対象になるのか。
- ・ 目先を変えて、東大和の振興を考えれば、現金ではなくても良いのではないか。市内で使用する商品券等に変えることもよい。
- ・ このテーマを市民に投げかけて、協働で考えていくことで、仕組み作りを進めたらどうか。
- ・ 職員とボランティアの役割分担をすることが必要。
- ・ やれる人は、たくさんいる。応援させてほしい。
- ・ 登録する側からすると、事業名称から事業が想像しづらい。ボランティアの種類をカテゴリー別にして市民にアピールしてほしい。
- ・ 良い事だから、もっとアピールしてほしい。
- ・ 「65歳以上立ち上がれ！」等の方が分かりやすい。
- ・ 自分が介護を受けないための活動だということのアピールの方がよい。
- ・ ボランティアの登録は、男女どちらが多いのか。

⑩ 図書館の運営（清原図書館）

- ・ 図書館で、借りていく人と読んで帰る人どのくらいの割合か。
- ・ 曜日利用者数を年度別にみると、日曜日の落ち込みの率が高い。平日と日曜日で利用者は変わるか。
- ・ 日曜日の落ち込みがあるのでそこに力を入れるという方法もある。
- ・ 平日高齢者が長時間利用するといった状況がみられるため、今後の図書館の役割は少し変わっていかざるを得ない。
- ・ 年間開館日数からみると、1/3が休館、開館日を増やしてほしい。人を増やさないと無理なのか。
- ・ 休館日が固定の曜日に加え、第3木曜日が休館などわかりづらい。他市の図書館は休館日が固定した曜日で分かりやすい。
- ・ 貸出はしないで開館のみすることはできないのか。
- ・ 全市的に図書館全体で貸出冊数が減少傾向にある。要因は若者の読書離れ。ITの活用など社会の変化。
- ・ 貸出冊数は減っても、図書館に来る人は数字には表れてこないが増えているのではないか。
- ・ 市民需要として、開館日は増えてほしいが、現状の職員体制の中では厳しい。
- ・ 他市における指定管理の状況はどうか。課題をクリアするためには早い時期に指定管理という方向に進むべきではないか。
- ・ 職員体制。正規の職員と嘱託職員の差がある。資格を持っている人の方が優位に立つということはある。正職員が資格を取得すると言った方向性はないか。
- ・ 返却の督促率はどれくらいか。選書は毎週する必要があるのであるのか。開館日の増を優先させるために他の業務を切り捨てる方法もある。督促をやめても支障がないかもしれない。レファレンス業務をやらない日があっても良い。発想を換えるしかない。
- ・ 365日開館してほしい。民間が出来て市が出来ないのはおかしい。
- ・ 利用者との懇談会をしたことはあるのか。利用者の意見をフェイストゥフェイスで聴くことも大切。
- ・ 市民が購入して読み終わった本を集めるシステムをつくったらどうか。
- ・ 中学生・高校生は、帰宅時間が遅いので利用は無理なんだと思う。働いている世代も同様。
- ・ 利用者を増やしたいと考えるのであれば別のアプローチを考えないと市の図書館がだめになる。
- ・ 市でやる意味をみいだして、市民が利用しやすくするには、人数を増やさなくてはならない。
- ・ 中央と地区館によって役割分担を極端に変えて、中央図書館はサラリーマンも借りられるように資源を集め、地区館はコミュニティ的に集まるような感じに変えろとか。創意工夫して少しでも市民が満足できるような発想の転換をしてほしい。
- ・ 市の職員の中でも図書館の職員の対応はさわやかでよい。

⑪ 消費者保護対策事業

- ・ 相談件数が増えている。相談内容や年齢層に際立った変化があるか。
- ・ 相談が出来る窓口があることを知らなかった。市民がどの程度認知しているのだろうか。大切な事業である。
- ・ 広く浅く知らしめておくことが必要で、何かあったら相談できる所があるという事が市民に認識されることが必要。
- ・ 誰か(機関)と連携して事業を周知していくという取り組みをしているか。パートナーを得て力を貸してもらうことも必要。
- ・ 高齢者が集まる所に出向いて、被害件数など具体的な内容を知らせて注意喚起する。(公民館などに人が集まる時など)
- ・ 市民と語る場を設けて広げていく。
- ・ 消費生活だよりは、目につく所にあると良い。ちょこバスの中とか。
- ・ 消費生活だよりを見たことは無いが、各家庭に配っているのか。
- ・ 自治会には配っていないのか。自治会で回覧してもらったらどうか。
- ・ 警察が流している情報とだぶっている所もある。連携はしているのか。
- ・ 警察等の行政間で定期的に情報交換することによって役立つ事はあると思う。
- ・ パネル展については、意外と見ない人が多い。出前的に出向いて話す方が効果があるのではないか。
- ・ 消費者講座について、高齢者の被害が多いなかで、タイムリーなテーマで動員を図る。市だとできる事があると思う。
- ・ 講座は、複合でやらないと集客できないと思う。つまらないと思ったら行かない。
- ・ 公民館の部屋の連絡調整の日に出向いて、情報を伝えることはできないか。(参加者は女性が多いので、口コミで広がる。)
- ・ お金がかからないがすぐできることは、考えないで即やってみる。
- ・ 出前講座をやっているが、実績はあるか。
- ・ 他人依存の方法を活用する。

⑫ 機能訓練事業

- ・ 4人で費用が500万円近くになっている。多いのではないか。
- ・ 4人は23年度から同じ人か。肉体的疾患か精神的疾患か。
- ・ 市内には対象者が4人しかいないのか。対象者の掘り起こしはしているのか。
- ・ 他の類似サービスとは具体的に何か。
- ・ 他の制度を利用している方と別にメニューを行っているのか。
- ・ 利用者が4人で、掘り起こしの方法もあるかと思うが、市民にこの事業が理解されているかどうか。
- ・ 市が行っている多種多様な事業を市民に知ってもらうことが課題。
- ・ 心の病についての利用すべき人はいないのかどうか
- ・ 対象者が増加した場合は、委託側の専門職の体制は十分か。
- ・ 65歳以上になって、老人保健法に移った後の状況は把握しているか。制度の統一性はどのようなのか。
- ・ 理学療法士の方が、高齢者とこの対象者と一緒には出来ないのか。
- ・ 経費の内訳は、人件費が主だと考えてよいのか。
- ・ 利用する人数が増えても経費は固定なのか。
- ・ 経費を削減する方法として、委託先で専門職を効率的に活用する事が出来ないか。
- ・ 施設にいる理学療法士を活用することは出来ないのか。老健の担当と兼任では駄目なのか。

⑬ 園芸振興対策事業、ファーマーズセンター運営費

- ・ 建屋の管理の経費、活用方法は。稼働率は。
- ・ スタートの時点は画期的な事業で、活発に行われていた。ファーマーズセンターも収穫祭等様々な事業に活用されていた。
- ・ ファーマーズセンターは限られた時間で限られた団体しか使っていない。広く一般市民が活用できるようにできないか。
- ・ センターと公園が隣接していて環境がよい。トイレの使用に関して、快く貸してもらえないときいたことがある。
- ・ 新しい農園が増えたことは良いこと。希望者は。
- ・ 申込者が多く、待機者がいる状況。又貸しをしているようなことがあると聞いたが事実か。実態調査をしたことがあるか。
- ・ 適正に利用するよう働きかけが必要。
- ・ 稼働率が100%になっていない年度があるがなぜか。
- ・ 一人の利用者に対し4万円くらい経費がかかっている。もっと利用者の広がりがある事業になる事が必要ではないか。
- ・ 委託料が高く感じる。
- ・ 特定の人だけを対象とした事業は意味がないのではないか。収穫祭等活発に広がりを図るべき。
- ・ 使用料の算定根拠は。限られた人しか利用できない中で、応分の負担をして頂くべき。少なくとも借地料100%負担。
- ・ 畑を貸してくれる農家は少ないのか。

外部評価結果一覧

事業名	評価結果				コスト	成果	備考
	拡大の方向	現状維持	廃止に向け縮小	休止・廃止			
①市営住宅管理事業	0	0	2	4	減	低下	
②交通安全自転車対策事業 (放置自転車撤去)	0	5	0	0	減	向上	
③巡回相談事業	3	2	0	0	維持	向上	
④小学校音楽鑑賞教室	0	5	0	0	維持	向上	
⑤東大和市学校研究奨励事業費補助金	0	3	0	2	維持	向上	
⑥駅前広場管理事業	1	3	0	1	維持	向上	
⑦木造住宅耐震助成事業	5	0	0	0	増	向上	
⑧高齢者食事サービス事業補助金 交付事務	0	2	0	4	減	低下	
⑨介護支援いきいき活動事業	6	0	0	0	増	向上	増4 維持2
⑩図書館の運営(清原図書館)	0	6	0	0	維持	向上	
⑪消費者保護対策事業	6	0	0	0	維持	向上	
⑫機能訓練事業	3	2	0	0	減	向上	向上3 維持2
⑬園芸振興対策費、 ファーマーズセンター運営費	4	1	0	0	減	向上	

委員からの意見・感想

- ・ 試行当初に比べ、振り返りシートや情報提供の方法が充実した。
- ・ 傍聴を入れてよかった。評価委員のやり取りの中で傍聴者も事業の中身を知ることが出来たのではないか。
- ・ 主管課の説明も慣れてきている。質問に対してほぼ的確に答えている。
- ・ 事前資料についても行き届いているので評価に際し役立った。
- ・ 評価するのは難しい。来年は勉強して臨みたい。
- ・ 不慣れであったが少しずつ慣れてきた。市の仕事が細分化している事を感じた。1つでも2つでも意見が反映されたら嬉しい。
- ・ 市の仕事は複雑多岐にわたっている。予算の関係を勉強していきたい。
- ・ 課長の説明でもいいが先頭に立ってやっている係長からの説明も欲しい。
- ・ 振り返りシートについて、指摘されたことや課題について課でどう対応したかがわかる項目があると良い
- ・ 当該事業と市の当年度のテーマに対して、自分達としてどう考えられるのかの欄を設けたらどうか。
- ・ 別の次元ではあるが、委託事業・補助事業が多岐にわたっている。横断的に統括する課があってもよい。
- ・ 行政評価推進会議で取り上げるが、どんな議論がなされるか内容を公開してほしい。
- ・ 教育について門外漢である。該当事業だけでもよく利用しているとか利用者や当事者に参加してもらえると良い。
- ・ 委託・補助事業は、臨場感を持たせるために必要に応じて委託先に同席してもらおうと内容が深く理解できる。
- ・ 評価委員の意見は、あくまでも行政が参考にするもの。今後、行政評価推進会議で決められた方向になるが、委員が意見として出した事が少しでも参考になればよい。
- ・ 委員の今までの経験の違いから、意見が言えない部分もある。予算を勉強したい。
- ・ 経費について、もう少し詳しく具体的に知らせてほしい。
- ・ 傍聴者は、参加が多くて良かった。
- ・ 市長が聞いてくれたことは良かった。
- ・ 振り返りシートは全ての事業について書くのか。

外部評価委員

井島 稔委員、 内野 真奈美委員、 川村 光弘委員、 倉林 静子委員、
鈴木 昭司委員、本石 哲夫委員、 柳下 進委員 (50音順)

任 期 : 平成26年5月15日から平成29年3月31日まで

コーディネーター : 大崎 映二氏

外部評価日程表

- ①担当課からの事務・事業についての説明
- ②外部評価委員からの事務・事業に対する意見
- ③各外部評価委員の挙手による評価結果

日程	13:15~13:45	13:45~14:35	14:45~15:35	15:45~16:35
7月22日 (火)	外部評価委員への 会議概要説明	総務管財課	土木課	学校教育課
会議棟 第1・2会議室		市営住宅管理事業	交通安全自転車 対策事業 (放置自転車撤去)	巡回相談事業
日程	13:15~14:05	14:15~15:05	15:15~16:05	16:15~17:05
7月23日 (水)	指導室	指導室	都市計画課	環境課
会議棟 第1・2会議室	小学校音楽鑑賞教室	東大和市学校研究 奨励事業費補助金	木造住宅耐震 助成事業	駅前広場管理事業
7月25日 (金)	高齢介護課	高齢介護課	中央図書館	市民生活課
会議棟 第1・2会議室	高齢者食事 サービス事業 補助金交付事務	介護支援いきいき 活動事業	図書館の運営 (清原図書館)	消費者保護対策事業
7月28日 (月)	健康課	産業振興課	会議まとめ 次年度打合せ	
会議棟 第1・2会議室	機能訓練事業	園芸振興対策費、 ファーマーズ センター運営費		